目次

口絵写真

第三編　近・現代……一

第一章　村の行政……一

第一節　大鹿村の成立……一

一　明治初年の両村の体制……一

二　最初の合併……四

三　分離復旧……五

四　合併、分村当時の大鹿村政……六

五　連合体制から再合併へ……八

第二節　大鹿村役場位置問題……二

一　鹿塩区の不満……二

二　両区の陳述……三

三　委員の覚書　調停意見書……四

四　役場位置の決定……一六

第三節　町村制実施後の大鹿村行政区画とその代表者……一七

一　名称の変遷……一七

二　各耕地の委員……一八

——耕地委員・臨時委員——

1　区費負担

2　区会設置の建議

三　区画分割と総代制……二〇

1　大鹿村部落事務規程

2　部落総代会記録（抜）

四　大河原　鹿塩両区歴代区長及び同代理者……三三

五　区画改正と区長及び代理者……三三

1　区画改正

2　歴代区長表

第四節　不正融資と財政再建……三六

一　二億円事件……三六

1　事件の発覚と村議会の対処

2　有罪判決

3　不正融資の内容

(一)　大成林業株式会社関係

(二)　村内業者関係

(三)　不正融資資金の調達

4　借入金対処

二　財政再建のために……三九

1　地方財政再建促進特別措置法の準用団体の指定陳情

2　再建に関する諮問とその答申

諮　問

答　申

諮問委員会の構成員

3　財政再建の基本方針

4　財政再建下の歩み

役場機構の改革と人員減

病院の診療所格下げ

三　債務者らに対する処理……四七

1　山本に対する処理
大成林業松川町工場の処理
2　村内建設業者に対する不正前払いの処理
3　賠　償
4　再建成就
第五節　過疎とその対策 …… 五二
――大鹿村過疎地域振興計画――
一　進む過疎現象 …… 五二
二　大鹿村過疎地域振興計画の樹立 …… 五三
1　地域振興五か年計画
2　村勢発展の方向
3　村過疎地域振興計画書
――昭和五十五年～五十九年――
大鹿村の概況
振興の基本方針
交通通信体系の整備
教育、文化施設の整備
生活環境施設及び福祉施設等厚生施設の整備
医療の確保
産業の振興
集落の整備
三　大鹿村総合振興計画策定 …… 六八
第六節　選挙　村行政機構 …… 七〇
一　選挙制度 …… 七〇
二　大鹿村選挙管理委員名簿 …… 七一
三　村役場処務機構の推移 …… 七二
四　歴代三役並びに村会議員名簿 …… 七五
第二章　大鹿村有林野 …… 八二
第一節　概　況 …… 八二
一　位　置 …… 八二
二　管理経営の沿革 …… 八二
1　部　分　林
2　自家用材払下げ制度
第二節　大河原　鹿塩両区有林野の沿革 …… 八四
一　大河原区有林野の沿革 …… 八四
1　百姓持ち山林の没収と復帰
2　官有林編入と民有林山への復帰
3　入会規定
共有山林取締議定書
大鹿村大河原区土地使用徴収条例
4　分間地図調製についての誓約書
5　大河原区有林立木売却
売買契約の締結
売却金配分
第二次契約
売却金の疑惑と解決
第三節　鹿塩区有林野の沿革 …… 一〇〇
一　江戸時代 …… 一〇一
二　明治時代 …… 一〇五
三　鹿塩村共有山野利用 …… 一〇五
四　共有山取締規則 …… 一〇五
1　大栗　塩原共有地
2　鹿塩区有土地使用に関する条例

第四節　鹿塩山論……一〇九
一　発　端……一〇九
二　林野制度……一一〇
三　九〇名の訴願……一一〇
四　鹿塩山論事件経過概要……一一一
五　長野県庁へ出訴……一一一
1　新境界に対する異議
2　大鹿村戸長の答申
3　山論地反別
4　相手方の反論
六　飯田区裁判所への訴訟……一一六
七　論外者の抗議……一一九
八　松本裁判所へ上訴……一一九
1　訴　状
2　判　決
九　共私有山境界処分出願……一二二
1　慣行成跡取調書
2　県の実地検分
3　県の地所処分に対する変改訴願
十　山論再訴訟……一二〇
1　東京控訴院へ控訴
2　和　解
3　共私有地境界の決定
第五節　大河原　鹿塩両区有林野の統一……一二五
一　財産の統一勧奨……一二五
二　両区公有林野の統一……一二八
三　水沢山事件……一三一
1　水沢山立木売却
2　売買契約の取消し
3　事件報告書
第六節　鳶ヶ巣山事件……一三四
一　大河原区共有山林の転売……一三四
二　鳶ヶ巣越境伐採……一三八
三　事件解決への道……一三九
四　久原鉱業株式会社の事業……一四〇
第七節　御料地と村有地の交換……一四五
一　官林――御料林……一四五
二　黒川御料林地と中山日向村有林地との交換……一四六
三　御料地と村有地の交換比較……一四七
1　交換による管理経営
2　交換地域の比較
3　交換地域内の官行造林契約解除
四　黒川山の利用……一五〇
五　公有林野官行造林……一五二
1　公有林野官行造林施行
2　村の対策
3　恒石本重技手の記録
4　官行造林施行追加申請
5　官行造林契約一部解除
6　収　益

六　除山村有林野地の売却 …… 一九六
1　売却の理由
2　売却契約
3　売却収入金の使途
4　小渋川上流の治山
第八節　林業の記録 …… 一九八
一　村の林業経営 …… 一九八
二　林業記録 …… 一九九
——大正六年（一九一七）～昭和十八年（一九四三）——
第三章　村の産業経済　Ⅱ …… 二〇六
第一節　産業組合設立以前 …… 二〇六
一　村の養蚕——明治時代より …… 二〇六
二　村の養蚕技術指導者 …… 二〇八
三　繭価暴落の悲劇 …… 二〇九
第二節　組合製糸大鹿館の設立 …… 二一〇
一　設立関係者氏名 …… 二一一
設立発起人　設立委員　設立者・設立当時の役員
第三節　組合の変遷 …… 二一三
第四節　組合製糸の経営 …… 二一三
一　事業成績 …… 二一三
二　設備の拡張 …… 二一四
三　出資一口の金額変更 …… 二一五
四　経営上に影響する糸価の変動 …… 二一五
五　従業員——繰糸作業 …… 二一七
六　組合長、専務理事、常務理事の異動 …… 二一八
七　解散当時の組合状況 …… 二一八
1　役員及び職員
2　組合現況
信用部事業・販売部事業　購買部事業　利用部事業
加工設備
3　役員勤続年数表及び歴代職員氏名
4　事業の状況累年比較表
5　産繭部累年事業成績表
第五節　大鹿村農会 …… 二一五
一　設立 …… 二一五
二　農会役職員組織 …… 二一五
三　総代及び役員名 …… 二一五
四　事業 …… 二一六
1　概括
2　各年度別における事業状況
大正十五年度事業
昭和二年度事業
昭和四年度事業
昭和五年度事業
昭和六年度事業
五　改組 …… 二一八
第六節　大鹿村畜産組合 …… 二一八
一　大鹿村畜産組合の設立とその活動 …… 二一八
第七節　大鹿村農業会 …… 二一八

一　設　立……二六八
二　役職員数並びに氏名……二六九
三　事業組織……二六九
四　戦時中の農業会……二六九
1　主要食糧供出
2　木炭供出
3　酒石酸供出
4　松根油供出
5　国民貯蓄
五　戦後の農業会……二七一
六　農業会の解散……二七二
1　大鹿村農業会の解散準備総会
概　況
財産目録
第八節　農業協同組合……二七五
一　農業協同組合法の四原則……二七五
二　二組合の設立……二七五
三　設立までの経過……二七五
第九節　大鹿村大河原農業協同組合……二七七
一　設　立……二七七
二　定　款……二七八
三　大鹿村大河原農業協同組合事業計画書……二七八
四　創立当時の役員……二八一
五　市町村農業会財産分割覚書……二八一
六　事業の概況――各年度（昭和二三年～四七年）……二八三
1　組合事務所設置理由並びに設立計画
2　稚蚕共同飼育所設置
3　農村経済確立推進要項
4　事業方針　昭和三十一年度
5　大鹿村共同稚蚕飼育所建設
七　大河原農業協同組合役員勤務者表……二九六
第十節　大鹿村鹿塩農業協同組合……二九七
一　鹿塩地区発起人会……二九七
二　設　立……二九八
三　大鹿村鹿塩農業協同組合概況……二九八
四　組合員数及び役職員構成……二九九
五　農協経営による事業……二九九
六　定　款……三〇〇
七　事業概況――各年度……三〇四
1　組合の再建計画
振興委員
振興整備計画
2　昭和三十年度事業計画書
3　農協刷新拡充三ケ年計画要旨
4　鹿塩農協事務所及び店舗の新築
八　鹿塩農業協同組合役員勤務者表……三一
第十一節　大鹿村農業協同組合……三三
一　設立経過……三三
1　合併促進委員会
2　新組合設立委員会

3　設立総会並びに第一回総会
4　定　款
二　事業経過――年度別（昭和四七年～五二年）……三二六
三　役職員氏名……三三〇
第十二節　昭和恐慌下の対応……三三〇
一　昭和の恐慌……三三〇
二　農村救済事業……三三一
三　大鹿村時局匡救事業（昭和七年　八年）……三三一
四　土木事業……三三三
1　失業救済市町村土木事業
2　農村振興町村土木事業
3　時局匡救農村振興事業
五　養蚕実行組合……三三四
1　大鹿村の養蚕実行組合組織（昭和六年～八年）
第十三節　戦時統制経済……三三五
一　物資資材の配給と統制……三三五
二　重要物資需給協議会の設置……三三六
三　食糧自給強化……三三六
第十四節　大鹿村森林組合……三三七
一　追補責任大鹿村森林組合の設立……三三七
1　事業経過
2　総　会
二　改組後の大鹿村森林組合……三三九
1　目的　事業
2　事業の概況
運営の基本方針「例」
指導部門
販売部門
購買部門
利用部門
金融部門
経営の歩み――苦難を越えて――
改組後の総会
機構改革年度と最終年度の事業状況
三　飯伊森林組合へ合併……三四七
1　情　勢
2　合併への経過
3　組織機構　役員等
第十五節　大鹿村の製炭……三五八
一　製　炭……三五八
二　大鹿村製炭組合の設立……三五九
三　村営製炭事業……三六〇
1　村直営製炭事業の発足
2　事業経営の概況
四　大鹿村農会の製炭指導……三六三
五　販路の拡張……三六三
六　木炭倉庫の建設……三六六
七　戦時体制下の木炭……三六六
1　統制と増産
2　青年学校生徒への製炭講習
3　製炭増産事業

第十六節　地下資源の利用……三六七
一　塩泉の利用……三六七
1　塩壺の共有と免租の歎願
2　塩泉地の官地編入
3　黒部　工藤の製塩
岩塩採掘坑区
塩水分析報告
山塩坑開業（掘削）
製塩方法
山塩浴場開業
黒部銑次郎の岩塩存在説
4　昭和の掘削と製塩
二　小日影銅山……三八〇
1　はじめに
2　発見者
3　小日影銅山の歩み
第十七節　大鹿村商工会……三八三
一　大鹿地区商業組合発足……三八三
1　定款
2　戦時経済体制下の整備統合
3　商業組合の解散と任意による商工会の設立
二　大鹿村商工会……三九一
1　設立
2　定款
3　主なる歩み
4　大鹿村商工会歴代役員名簿

第四章　土地と農民　Ⅲ……三九八
第一節　土地売買の解禁と地券の発行……三九八
第二節　地租改正……四〇〇
一　概要……四〇〇
二　大鹿村の地租改正過程……四〇〇
1　米相場で租税納入
2　地券調査
3　地租の例
4　地券関係記録
5　地券廃止
三　地租軽減に関する農民運動……四〇五
第三節　農地改革……四〇六
一　農民の土地保有から所有への道……四〇六
二　小作料問題……四〇七
三　農地改革による自作農創設……四〇八
四　村の農地改革概況……四〇九
1　改革以前における状況
2　農地改革直前における農地の事情
3　改革をめぐる農民団体の活動状況
4　農地委員会の組織及び活動状況
農地委員会の選挙
農地委員会の組織
発足当時の状況
農地委員会の活動状況
農地等の売渡状況
異議訴願の状況

五　戦後農政の動き……四三
六　大鹿村農業委員会……四六

第五章　村の教育　Ⅱ……四九

第一節　義務教育開始……四九
一　永山盛輝の学校創立論告……四九
二　松濤小校の創立……四九
三　塩井小校の創立……四三
四　創始当時の学校出納及び生徒数表……四五
五　創始期における役職名の変せん……四五
学校世話役――大世話人――学校世話掛総代
――主管人――執事――学務委員
六　学区と学区取締役……四六
1　小学区
2　学区取締役
七　就学……四八
八　教育費……四九
1　元資金利子
2　生徒授業料
3　学校資金賦課
九　義務教育三か年期の教育諸費……四四
十　校舎新築への動き……四六
十一　校名改称……四六
十二　学習教科目……四七
十三　下伊那郡第五番学区村立小学校設立……四七
第二節　簡易小学校から尋常小学校へ……四〇
一　大河原簡易小学校――尋常小学校……四〇
二　釜沢簡易小学校……四一
三　大河原簡易小学校校舎新築……四五
第三節　尋常小学校当時の状況……四六
一　取調書　沿革誌……四六
――大河原――
二　鹿塩学校校舎の新築……四四
1　宮ノ上新校舎
2　学事会
三　村内就学状況……四六
第四節　大河原尋常高等小学校……四七
一　校舎の新築……四七
二　久原製材事業による学級増と校舎増築……四四
三　御真影御下賜……四五
四　小渋川水電工事による学級増と校舎増築……四六
第五節　大河原国民学校……四六
第六節　鹿塩尋常高等小学校……四七
校舎の新築
第七節　六三制実施後の学校……四九
一　鉄筋コンクリート校舎の建築……四九
1　鹿塩小学校校舎
2　大河原小学校校舎

三六災害の被害
環境の整備
二　分校廃止とスクールバス通学……四七三
1　大河原小学校の部
2　鹿塩小学校の部
3　北川分校
三　学校プールの設立……四七五
大河原・鹿塩両小・中学校プールの設立
第八節　新制中学校の設立と歩み……四七六
一　新学制実施準備協議会の発足……四七六
二　準備協議会の活動……四七七
三　大河原　鹿塩両中学校の建設……四七九
四　建築委員会の組織……四七九
五　両中学校校舎の増築……四八〇
1　大河原中学校特別教室
2　鹿塩中学校特別教室
六　両中学校体育館の建設……四八二
七　大河原中学校沿革……四八二
八　鹿塩中学校沿革……四八五
九　大河原　鹿塩両中学校配置図並びに校歌……四八九
第九節　学校統合……四九二
一　明治末期――大正初期の学校統合……四九二
二　スクールバス通学……四九四
三　学校統合……四九四
1　大鹿村文教施設整備に関する答申
2　部落懇談会の反応
3　「小中学校の同時統合について」
――校長会の見解――
4　鹿塩小・中両学校PTAの要望
5　教育施設整備委員会結成
6　学校統合成る
四　歴代小・中学校長表……五〇五
第十節　PTA……五〇六
一　PTAの設置……五〇六
二　PTAの活動……五〇六
三　歴代PTA会長……五〇七
第十一節　青年教育……五〇七
一　青年夜学会……五〇七
二　大河原農工補習学校……五〇八
三　大河原実業補習学校……五〇八
四　鹿塩農工補習学校……五一〇
五　鹿塩実業補習学校……五一〇
六　青年訓練所……五一一
七　青年学校……五一三
1　大河原　鹿塩両青年学校の開校
2　両青年学校の統合
八　戦後の青年教育……五一六
1　従前の青年教育施設

2　定時制高校分校招致の研究協議
3　定時制高校誘置と公民館
九　下伊那農業高校定時制大鹿分校……五二七
1　設立の目的
2　設立当時の事情――その問題点
3　独立校舎と昼間授業
4　中心校への統合
第十二節　社会教育……五二九
――大鹿村公民館の歩み――
一　公民館の誕生とその理念……五二九
二　大鹿村公民館の発足……五三〇
三　発足当初の形体……五三二
四　初期の啓蒙活動……五三三
五　規則　条例……五三三
1　大鹿村公民館規則の制定
2　大鹿村公民館条例改正
「付」大鹿村公民館運営規則
六　館報の発行……五三六
1　分館報
2　大鹿村公民館報
3　館報「おゝしか」
七　学級の開設とクラブ活動……五三二
1　青年学級
2　高齢者学級
3　成人学級
4　公民館クラブ活動
八　行事……五三七
文化祭
夏季体育大会
「付」総合グラウンドの概要
九　館長　主事　指導員……五四四
十　大鹿村公民館運営審議会……五四六
第十三節　大鹿村教育委員会……五四六
一　教育行政の革新……五四六
二　村教育委員会の歩み……五四八
三　村教育行政……五四八
四　教育委員会関係委員……五四九
1　社会教育委員
2　大鹿村文化財調査委員会
第六章　兵事……五五二
第一節　義務兵役……五五二
一　徴兵……五五二
二　徴兵検査……五五四
三　入営連隊……五五六
四　兵事事務……五五七
五　在郷軍人……五五七
第二節　明治の戦役と大鹿村……五五八
一　明治の三戦役……五五八
二　西南戦争出征者……五五九

三　日清戦争……五五九
1　日清戦争の経緯
2　村の戦時体制
四　日露戦争……五六二
1　日露戦争の経緯
2　村の戦時体制
大鹿尚武会
大河原男子同窓会
釜沢蛍雪会
鹿塩青年会
鹿塩男子同窓会
鹿塩女子同窓会
3　出征軍人
日露戦争大鹿村出征軍人
日露戦争犠牲者
第三節　昭和戦時下の大鹿村……五六六
一　済南事件……五六六
二　満州　上海事変……五七七
1　はじめに
2　満州事変
3　上海事変
4　事変応召員
三　日中戦争開始と村の体制……五七〇
1　日中戦争
2　応　召
3　大鹿村防護団
大鹿村防護団の結成と防空訓練
長野県地区防空演習大鹿村防護団規約
防空演習
大鹿村防護団組織
4　勤労奉仕班結成
5　大鹿村国防兵役後援会
6　大日本国防婦人会大鹿村分会発足
7　国民精神総動員
大鹿村実行委員会の設置
国民精神総動員強調週間
第四節　長期戦下の大鹿村の体制……五八〇
一　応召につぐ応召……五八〇
二　国民精神総動員の強化運動と実践……五八一
三　大政翼賛会と翼賛壮年団……五八二
四　大鹿村大政翼賛会の組織……五八三
五　大鹿村翼賛壮年団結成と活動……五八三
1　大鹿村翼賛壮年団
「付」大鹿村翼賛壮年団準則
2　金属回収
3　食糧増産と供出
4　翼賛選挙
5　勤労動員出動
六　銃後の後援……五八七
1　軍事援助相談所
2　軍事扶助
3　応召軍人家族慰問及び慰安
4　応召家庭電灯料免除申請
5　慰問状・慰問袋の発送
七　大鹿村銃後奉公会の設立……五八九

「付」大鹿村銃後奉公会々則(抜)
八　部落常会の設置……五九二
九　勤労動員……五九二
1　軍需工場要員
2　満州勤労報国隊
「付」女子満州勤労報国隊の苦難記
3　食糧増産の農兵隊
十　戦没者名簿……五九六

第七章　交通　運輸　Ⅱ……五九九

第一節　道路の改修……五九九
一　明治時代における改修……五九九
二　大正時代の道路整備……六〇二
1　常設土木委員の設置
2　大鹿村道路規程の制定
3　久原製材搬出による道路改修
三　自動車道の開削……六〇六
1　県道粟沢時又線
「付」鹿塩地区への索道架設
2　岩洞自動車道の開削
3　県道松川松除線
4　バス運行

第二節　道路に関する陳情……六〇九
一　国、県への陳情……六〇九
1　大鹿大島停車場線県道編入陳情
2　大鹿南向飯島停車場線県道編入陳情
3　和田大鹿線県道編入陳情
4　中部横断道路国道編入の陳情
5　村道六号線県道編入の陳情
6　中央自動車道松川インター陳情

第三節　村道路線名並びに橋梁名……六一八
自大正九年四月一日
至昭和五十四年度

第四節　南アルプス横断路……六二四
一　大河原村から駿州田代村へ——安政時代……六二四
二　甲州街道開削——明治時代……六二六
三　基幹線林道鳥倉西俣線——現代……六三一
1　構　想
2　着工と経過

第五節　土木事業に関する記録……六三二
——道路　橋梁——
明治四十四年～昭和五十五年

第六節　産業道の開発……六四四
——林道・農道——

第八章　開　発……六四九

第一節　小渋川の開発……六四九
一　小渋川発電利用……六四九
1　小渋川発電事業計画
2　小渋川右岸林道開削
3　中央電力株式会社生田発電所大鹿取入口敷地権利
譲渡

4　村の電灯
第二節　小渋川総合開発 …… 六五七
一　はじめに …… 六五七
二　長野県開発局案 …… 六五八
三　村民の考え方 …… 六五九
四　三六災害後の計画変更 …… 六六一
五　小渋川上流総合開発第二次計画案 …… 六六二
六　大鹿村の対応策 …… 六六六
七　桶谷地区の移住 …… 六六八
1　補償基準
2　補償の交渉・要請
3　個人補償の調印
4　桶谷部落の離別
5　部落の消滅
八　村内発電計画のざ折 …… 六七七
九　県への要望 …… 六七八
——村再建要望書の提出——
付け替え道路——県道松川松除線——
第三節　山田の開発 …… 六七九
一　中峰駿木水田開発 …… 六七九
1　嘉永の開発
2　明治の通水
3　開発された水田面積
二　黒ノ田井水開削による上蔵北ノ原開田 …… 六八二
第四節　大鹿村開拓事業 …… 六八三
——南山　北ノ原の開拓——
第九章　保健・衛生 …… 六八五
第一節　江戸時代の病気治療 …… 六八五
一　神仏祈願 …… 六八五
二　幕府公布の簡易治療法 …… 六八五
三　千村家布告の麻疹手当 …… 六八六
四　疱瘡（天然痘）の流行と種痘 …… 六八八
五　医家の記録 …… 六八九
第二節　村の医療機関 …… 六九一
一　医院の設立 …… 六九一
二　久原診療所 …… 六九一
三　大鹿村産業組合の診療事業 …… 六九三
四　国民健康保険直営診療施設 …… 六九三
1　大鹿村診療所
2　村立病院
3　再び村立診療所となる
4　保健婦の設置
五　医療施設勤務職員及び国民健康保険運営協議会委員名簿 …… 七〇〇
第三節　伝染病の対策と予防 …… 七〇一
一　伝染病対策 …… 七〇一
二　大鹿村連合衛生組合の設立とその活動 …… 七〇三

三　伝染病流行の記録……七〇五
——明治～昭和——
四　伝染病の予防　防止活動……七〇七
第十章　福祉　厚生……七一〇
第一節　明治初年伊那県の養老扶持と高齢者褒賞……七一〇
一　養老扶持……七一〇
二　高齢者の褒賞……七一一
第二節　大鹿村福祉厚生事業……七一二
方面委員設置
第三節　大鹿村民生委員会……七一三
一　民生委員の誕生……七一三
二　民生委員の選任及び職務……七一三
三　大鹿村民生委員会の発足……七一四
四　委員の活動……七一四
五　民生委員就任者名簿……七一五
第四節　大鹿村保育所……七一五
一　農繁期保育所開設……七一五
1　鹿塩地区館の実験的実施
2　社会福祉協議会による実施
二　長期季節保育所開設……七一七
1　季節保育所開設指針
2　補食始まる
3　保母と父母の会結成
4　災害と移動
三　へき地保育所指定通年制保育所開設……七一八
四　常設保育所設置……七一九
五　専任保育所長設置……七二一
六　鹿塩　大河原両保育所の合併と大鹿保育所の発足……七二一
七　新保育所建設……七二三
1　大鹿保育所施設の概要
「付」大鹿保育所保護者会々則
第五節　大鹿村授産所……七二五
一　設　置……七二五
二　概　要……七二五
三　運営委員……七二五
四　歴代所長……七二六
「付」条例　規則
1　大鹿村授産所設置条例
2　大鹿村授産所管理規則
3　大鹿村授産所運営委員会規則
第六節　ホームヘルパー設置……七二九
第十一章　通　信……七三〇
第一節　電信・電話　郵便……七三〇
第二節　大鹿郵便局……七三〇
一　沿　革……七三〇

二　局　舎……七三三
三　逓　信……七三三
四　小学校教育との関わり合い……七三三
五　歴代局長名……七三三
第三節　鹿塩郵便局……七三四
一　沿　革……七三四
二　局　舎……七三四
三　歴代局長名……七三四
第四節　町村電話施設……七三四
第五節　大鹿村有線放送電話施設……七三五
一　有線放送の開始……七三五
「付」大鹿村有線放送電話施設の設置に関する条例
二　有線放送の運営……七三九
三　放送業務としての有線……七四〇
「付」歴代放送主任並びに保守主任
第十二章　消　防……七四一
第一節　消防組織……七四一
第二節　大鹿村消防の沿革……七四一
一　消防組織の成立……七四一
二　鹿塩消防組の設立……七四三
三　鹿塩消防組歴代組頭……七四四
四　大鹿尚武会消防部……七四四
——大鹿青年会警備部——
五　大鹿村消防組設置……七四四
大鹿青年会の改組
六　大鹿村警防団結成とその活動……七四六
七　大鹿村消防団の設置……七四八
機動力増強に伴う機構改革
八　現行の大鹿村消防団……七五〇
消防団の主たる活動並びに新組織
九　大鹿村消防団歴代団長……七五一
第三節　大鹿村消防委員会の設置……七五一
第四節　消防に関する記録……七五一
一　事変出動の記録——鹿塩消防組……七五一
二　事変、夜警、防火宣伝出動の記録……七五八
大鹿村警防団
三　事変出動の記録……七五八
大鹿村消防団
第十三章　観　光……七六〇
第一節　山　岳……七六〇
一　赤石岳の名称……七六〇
二　信仰登山……七六四
——行　者——
三　赤　岳　会……七六五
1　設　立
2　赤岳会改組再出発

3　赤岳会の事業
四　梅谷知事南アルプス縦走……七一
五　登山小屋設置と運営……七三
六　戦後の登山……七五
七　大鹿村山岳遭難救助隊……七七
第二節　南アルプス国立公園……七九
一　南アルプス国立公園設定の基本方針とその区域……七九
二　特別保護地区内の規定……八〇
三　南アルプス国立公園の価値……八〇
四　大鹿村地区内の国立公園区域……八一
五　国立公園指定の経過……八二
六　村の協力態勢……八五
「付」略図（二）
南アルプス国立公園、同大鹿関係区域
第三節　天竜小渋水系県立公園……八五
第四節　大西台地の桜……八五
一　桜植栽の努力……八五
二　「宝くじ桜」植樹祭……八七
第五節　観光産業……八〇
小渋温泉保養センター赤石荘
第十四章　災害……八二
第一節　災害の記録……八二
一　中世から幕末まで……八二
二　明治以降～昭和……八五
第二節　三六　六災害……八四
一　未曽有の大災害……八四
二　災害発生状況……八五
1　河川大氾濫による惨事
2　大西山大崩落
3　重軽傷者の救護
4　無電連絡
5　北川地区流出
三　災害対策……八一〇
1　救援
「付」大鹿村災害対策組織表
2　機動隊の活躍
3　災害防疫活動
4　炊き出し――日赤奉仕団の活動
5　空輸による救援
6　西沢県知事の被害状況視察
7　災害激甚地に対する立法措置等諸陳情
四　災害の科学的考察……八一九
1　当時の気象状況
2　大鹿村の地質構造
五　昭和三十六年梅雨前線集中豪雨による災害状況並びに対策の概況報告……八二〇
1　災害の原因

2　災害発生状況
3　災害対策の概況
4　復興対策についての所見
5　死亡者確認名簿
6　行方不明者名簿
7　り災者調書集計表
六　被災者村税減免措置……八五五
七　災害犠牲者の合同葬儀……八五五
八　災害復興記念式……八五六
九　二十周年記念式及び災害犠牲者慰霊祭……八五八
「付」他団体による供養
第十五章　治山・治水……八三三
第一節　江戸時代における災害発生の一原因……八三三
第二節　川除け普請……八三三
第三節　保安林……八三五
一　保安林の設定……八三五
二　保安林分布状態……八三六
第四節　赤なぎ砂防工事……八三七
——県営——
第五節　小渋川流域砂防工事……八三八
一　砂防工事への道……八三八
二　建設省関係工事……八三八
1　概要
2　上蔵堰堤
3　七釜砂防ダム
4　小渋川流域に設置された砂防施設
第六節　小渋川流域治山事業……八四三
——長野営林局——
一　事業の概要……八四三
二　治山事業の基本的調査……八四三
1　地質及び土壌
2　崩壊の概況及び特性
3　施行上の要点
三　治山工事の代表的なもの……八四六
四　急傾斜地災害崩壊防止地……八四七
五　地すべり防止区域……八四七
六　塩沢崩壊地復旧事業……八四八
七　鳶ケ巣崩壊地復旧工事……八四八
第十六章　諸団体……八五〇
第一節　大鹿村婦人会の歩み……八五〇
一　大正期の主婦会……八五〇
二　鹿塩婦人会……八五〇
誕生とその事業
三　大河原婦人会……八五〇
1　発足
2　事業
四　愛国婦人会加入……八五一

農繁期託児所開設
五　大日本国防婦人会加入 …… 八五二
六　大日本婦人会と改称 …… 八五三
七　大鹿村婦人会 …… 八五三
1　概　　観
2　発　　足
3　婦人会の四面
日赤奉仕団結成
農協婦人部発足
結核予防婦人会結成
4　婦人会の活動
主な全体活動
地域における活動
各年度の活動
「付」大鹿村婦人会会則
5　大鹿村婦人会歴代正副会長氏名
第二節　大鹿村老人クラブ …… 八六七
一　発足と経過 …… 八六七
「付」諸規定
1　大鹿村老人クラブ高砂会々則
2　老人クラブ運営基準
3　大鹿村老人クラブ高砂会慶弔規定
4　大鹿村小渋（赤石・鹿塩）クラブ会則
二　単位クラブの活動 …… 八七〇
1　大鹿村老人クラブ連合会（高砂会）活動状況
2　各単位クラブの事業（活動）状況
大鹿村大河原小渋クラブ
大鹿村大河原赤石クラブ
大鹿村鹿塩クラブ
三　研修旅行 …… 八七二
四　連合会及び各単位クラブ会長名 …… 八七三
第三節　青年会の歩み …… 八七三
一　青年集団 …… 八七三
二　大鹿村尚武会 …… 八七四
三　大鹿村青年会 …… 八七四
四　鹿塩地区祭事青年団 …… 八七六
五　鹿塩青年会 …… 八七八
六　戦後の青年団 …… 八七九
1　大鹿村青年団協議会
2　大鹿村青年団再発足
「付」大鹿青年団団則
第十七章　人口推移 …… 八八四
第一節　戸　　籍 …… 八八四
一　宗門改帳から壬申戸籍へ …… 八八四
二　戸籍標札番号 …… 八八六
三　国勢調査 …… 八八六
第二節　戸数　人口 …… 八八八
一　戸数　人口の推移 …… 八八八
1　江戸時代
2　明治～昭和

3　部落別世帯数の比較
昭和二八年　五〇年
第十八章　海外移民……八九〇
——満蒙開拓者送出——
第一節　信濃海外協会の農業移住計画……八九〇
一　満州愛国信濃村の建設……八九〇
二　移民係の設置と移民募集……八九〇
三　農業移民応募……八九一
四　開拓団の悲劇……八九二
第二節　満蒙開拓青少年義勇軍……八九三
一　興亜教育……八九三
二　大鹿村の送出状況……八九三
1　満蒙開拓青少年義勇軍募集要綱
2　満蒙開拓青少年義勇軍の記
参考文献　中巻……八九七